平成２６年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	元風ネット
議員名	金濱　元一　・　南川　達彦
調査実施年月日	平成26年10月16日
調査先　自治体名等	秋田県秋田市
調査項目	エイジフレンドリーシティ構想（タブレット端末を使った生活支援など）について
調査目的	●高齢者に優しいまちづくりについて
報告内容 実施したこと	1　視察先（市町村）の概要 人口：318,855 人（H26.9現在）　行政面積：905.67 k㎡ 2　視察内容 秋田市　福祉保健部　長寿福祉課　エイジフレンドリーシティ担当課長 堀　洋子　様 秋田市　福祉保健部　長寿福祉課　エイジフレンドリーシティ推進担当 佐藤　朋子　様 にお話をうかがった。 ●秋田市では、市全体で高齢者の住みよい街を目指し、WHO（世界保健機構）が提唱する『エイジフレンドリーシティ構想』に日本で唯一参加している。 1～2年目は計画期としての庁内での高齢施策、3～4年目の実行期、5年目の検証期の5年を1サイクルとして事業を運営する。 現在は、計画期を終え、3年目の実行期に入っており、今後の事業運営が期待されている。 『エイジフレンドリーシティ構想』のこれまでの効果として、庁内全体での取り組みという認識が高まり、各部局での事業についても高齢者での目線で検討されるという変化も出てきたとのことであった。 課題としては、市民周知と認識を広めるという点があげられていた。
感想（まとめ） 本市へ生かせること 等	本市の高齢者施策は充実しておりますが、庁内全体の施策に高齢者に対して配慮がされているということまでは至っていないように感じる。 秋田市のように、市が構想として宣言することで、庁内全体での高齢者に対する意識啓発がされるという点は、高齢化率が他の自治体に比べて高い本市としては大いに学ぶべき点である。 今後の超高齢化社会へ向け、自治体の準備を計画的に進めるという必要性を学ぶ良い視察となった。